

令和7年度高岡市男女平等推進市民委員会会議録（要旨）

【日 時】 令和7年9月11日（木） 午後3時～午後4時30分
【場 所】 高岡市男女平等推進センター会議室
【出席者】 <ul style="list-style-type: none">・委 員 13人（野口会長、老子委員、大平委員、川渕委員、坂田委員、千野委員、中村委員、沙魚川委員、林委員、堀井委員、松嶋委員、森岡委員、矢竹副会長）・高岡市 6人（出町市長、長久生活環境文化部長、竹内男女平等・共同参画課長、寺口男女平等推進センター所長、事務局2名）
【内 容】 <ul style="list-style-type: none">1 開 会2 市長あいさつ<ul style="list-style-type: none">・今まででは男性目線のところが多かったが、従来の枠に捕らわれず、一歩踏み出す政策を進めていけば状況は変わるのでないかと思う。・委員の皆様方のお力添えをいただきながら、女性が色々発言でき、活躍できるようなまちづくりを進めてまいりたい。3 委員紹介4 会長あいさつ<ul style="list-style-type: none">・高岡市の男女平等・共同参画に関する施策、事業の審議について、皆様のご意見、考え、提案などをいただきたい。5 議事<ul style="list-style-type: none">◎ 会長<ul style="list-style-type: none">・初めに、目標とする指標の推進状況、高岡市男女平等推進プランの取り組み、高岡市DV対策基本計画の取り組みを事務局より一括してご説明いただきたい。● 事務局<ul style="list-style-type: none">・男女平等推進プランの取組状況を、資料1、2により説明・DV対策基本計画の取組状況を、資料3により説明 <p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none">○ 委員<ul style="list-style-type: none">・女性人材バンクに求人登録し、1人採用に繋がった。求職者情報に希望職種など分かりやすく書いてありマッチングしやすいと思う。もっと数が増えるようPRしていただきたい。◎ 会長<ul style="list-style-type: none">・女性人材バンクの申込件数が昨年と変わらないが、増減があって結果的に同じになったのか。● 事務局

- ・年度ごとの数であり、人材の登録件数は令和5年度と同じになった。
- ・利用者を増やすため、市HPやSNS、就職説明会等で人材バンクの周知に取り組んでいる。
- ・令和6年度から開始した人材バンクの一部委託では、キャリアカウンセリングを行い、登録者のニーズを聞いてマッチングに繋げる取り組みを行っている。また、新たなスキルを付けるため、コミュニケーション能力やデジタルスキル等のスキルアップセミナーも実施している。今年度のスキルアップセミナーは、昨年度好評だったデジタル研修を多くする予定。登録人材の増加とマッチングに繋げていきたい。

◎ 会長

- ・人材の申込件数に対して求人件数が少ない。あとマッチング数が申込数に対して少ない気がする。

○ 委員

- ・申込者はハローワークにも行っていると思うのでマッチング数の少なさについて一概には言えない。申込方法等は紙ベースだけではなく若い人向けにWebもあればいいと思う。

● 事務局

- ・申込方法は、紙と電子申請の2通りある。申込者は子育て世代（30～40代）が多く、電子申請による申込が多い。

◎ 会長

- ・市役所の女性管理職は多くなってきてているようだが、審議会等ではまだまだ女性が少ないところがある。

○ 委員

- ・資料1に女性委員がいない審議会等が4つと記載されているが、どれも大事な委員会だと思う。公募するなどして選出方法を工夫したら女性を登用できるのではないか。

◎ 会長

- ・委員選出方法は委員会によって異なるのか。

● 事務局

- ・委員の選出方法は、専門的な立場から意見をいただきため、有識者や関係団体からの推薦により選任していることが多い。関係団体の役員に女性が少ないため、女性の登用になかなか繋がらない。一方で、PTA会長等は女性の割合が増えており、徐々に女性が増えている団体もある。審議会等の委員選任の際には、関係団体に、女性の推薦を働きかけるなどして女性の登用促進に努めていきたい。

◎ 会長

- ・公募してはどうかという意見についてはどうか。

● 事務局

- ・市役所が委員会を立ち上げるときは、専門的な意見を求めるところから、関係団体に

委員をお願いする傾向がある。委員数を増やして公募を取り入れる方法もあるが、会議の効率性や専門性等の課題がある。

◎ 会長

- ・引き続き、女性の委員を増やすよう取り組んでいただきたい。

○ 委員

- ・女性人材バンクについて、申込件数に対してマッチングが少ないので、勤務時間帯や勤務条件が合わないからなのか。

● 事務局

- ・女性人材バンクに登録できる人は、子育て中の人大きなため、働く時間の多くは日中に限られている。一方で、登録事業所は学童保育等の求人が多く夕方勤務のため、なかなかマッチングにつながらない。

○ 委員

- ・周知方法について、もっと子育て世代に目につきやすいところでPRしてはどうか。また、インターネットを利用される方が多いと思うので、市の子育てアプリから入っていけるようにするなど子育て世代に関するものを活用することで、子育て世代の方が見る機会が増えると思う。

● 事務局

- ・子育て関係のアプリの活用等で女性人材バンクの情報を周知できるように考えていきたい。

○ 委員

- ・保育所や放課後児童育成クラブに遅くまで預けられている子どもが多くなり、地域での子どもの見守りや地域と子どもとの繋がりがなくなっている。地域で子どもを育てる地域力が欠落してしまい、児童虐待等があっても地域の人が発見できず、関わることもできなくなっている。

- ・放課後児童育成クラブの支援員が不足しているとあるが、採用される支援員の質によって施設に差がでてくる。

● 事務局

- ・放課後児童育成クラブは、地域の協議会などで運営しており、国や県の補助金を受けながら市が補助する形で実施している。支援員の雇用は地元や自治会が行っており、地域の若い世代が困っていることを解決するため、その親世代や自治会を中心になって地域で協力している。その活動が子どもたちを見守るネットワークに繋がっていくと考える。

- ・DVや児童虐待については、孤立して相談相手がないことが多いので、市では専門性を持った担当課が連携を取って支援しながら、今後も地域での子育ての取り組みを進めていきたい。

○ 委員

- ・毎月1回、市役所で人権擁護委員による人権相談を行っている。相談を受けた中で、高齢女性の多くが、地域社会のなかで生きづらさを感じているようだ。男性か

らのDV相談も何件かあった。高齢化社会が進んでいく中で、子どものことも大きな問題だが高齢者も様々な問題を抱えている。また、企業内においてもパワハラで悩んでいるといった相談もある。

- ・資料1、16ページ、図書やDVDがたくさんあるのに貸出数が少ない。もっと情報を公開し図書やDVDの貸出を行うことで、企業内における研修の推進等にも繋げていけばいいと思う。

● 事務局

- ・企業でもハラスメント研修を行っていると思う。ハラスメントは意識をしっかりと持って、それに対応できるかが大事だと思う。個人としての働きやすさ、活躍ができる状況を作っていくためには、最初は研修を通して理解、勉強していくことが必要だと思う。市では人権講演会など行っているので活用していただきたい。

◎ 会長

- ・自分はハラスメントだと思ってなくとも相手がどう捉えるかが重要になる。商工会議所の関係でハラスメントセミナーなどあるのか。

○ 委員

- ・会員や企業向けに様々な講座を行っている。

◎ 会長

- ・学校現場ではハラスメントはどうか。

○ 委員

- ・学校では、いじめ問題をハラスメントの一種として捉え指導している。例えば先輩から後輩のいじめはパワハラだと教えて解決に繋げるなど、幼いころからハラスメントに対する意識を持たせている。大人になった時にそのいじめがパワハラ、セクハラに繋がる可能性があるかもしれないということを意識しながら指導している。

- ・男女の差について、昔ながらの考え方の先生は少なくなってきた、男だから女だからという指導はほとんどなくなっている。例えば、名簿も男女混合で五十音順になっている。制服はセーラー服と学ランの違いはあるが、女子はスカートにすべきということは無くなってきた。

● 事務局

- ・9月1日に商業雇用課と男女平等推進センターで「女性のためのコミュニケーションセミナー」を開催した。働きやすい職場環境を目指して、相手を傷つけずに相手の話をよく聞き、話し合うといった職場での基本的なコミュニケーション方法を学ぶもの。企業におけるパワハラや高齢者の問題等がよく取り上げられていたので、このテーマにした。今後、粹メンプロジェクトで、夫婦間でのコミュニケーションを良くしていく講座を開催する予定である。

◎ 会長

- ・少しずつそういった課題への取り組みが進んでいると思う。引き続き市でも取り組んでほしい。

○ 委員

- ・資料3、7ページNo.39、自助グループの活動支援とあるが、自助グループには「パサパ+a」という名称があるので、それも記載してほしい。パサパ+aでは、被害から回復した方の更なるエンパワーを目標に、センターの相談室で相談を受けた卒業生を対象に体験や感情等を共有する場をつくり、長く支援している。被害を受け辛い目にあったがゆえに、会社でパワハラ等を受けるとより深く傷ついてしまうことがあるので、そういう方がいたら男女平等推進センターの相談員に繋いでほしい。
- ・中学校でデートDV予防啓発講座をしているが、子どもはスッと入り込んで理解してくれる。一方で、40~60代の意識を変えることはなかなか難しい。その世代の方に働きかけるために、企業に入り込んでいきたい。企業向けに、デートDV講座でも十分効果があると思うので、ハラスマント講座に取り入れてほしい。

○ 会長

- ・企業向けの取り組みについて、ワーク・ライフ・バランスの推進だけでなく、人権に関することなどの要素を取り入れていけばよいと思う。
- ・厚労省が7月に今までのイクメンプロジェクトを共育プロジェクトに変更すると発表したが、今の高岡市男女平等推進プランの評価において、数値等に影響がでることはあるのか。

● 事務局

- ・共育プロジェクトは国が立ち上げたプロジェクトで、男性の育児休業取得率は高まっているが、さらに育児休業を取りやすい環境を進めるなど、男女が共に子育てすることを進める取り組み。内容や目標数値など具体的なことは今後公表されるよう。次期男女平等推進プラン策定時に、国の動きをみながら対応していきたい。

○ 委員

- ・自治会に参加する女性が少ない。自治会から役員をお願いしてもなかなか引き受けてくれない。サークル活動等には多くの女性が参加しているようだが。自治会の運営には女性目線の意見、女性の参加が大切だが、どうしたら女性の方に参加してもらえるのか。

○ 委員

- ・先程、高齢女性の方が被害を受けているという話があったが、女性の仲間が近くにいないというのも原因の一つかと思う。自治会で女性部がなくなったから女性の顔が見えず、近所にどんな方がいるか分からず状態である。地域に高齢者は多くいるが、女性は仕事や介護、孫の面倒等で忙しく、見守り隊などの地域活動に協力する人が少なくなっている。

○ 委員

- ・地域から若い人がいなくなり、地域行事等に協力してくれる人もいなくなり、高齢化が加速し、危機感を感じている。

○ 委員

・うちの地区も女性部はなくなったが、女性が自治会に入らないのはおかしいと思っていたので、女性委員として各分会から一人ずつ出でもらつた。自治会の会合に出て意見を言える女性を増やす必要があるので、自治会の中に女性が入るための入口を用意すれば、若い人も出てくるし、会合で意見を出す女性もいる。自治会の運営方法等をどんどん変えていってほしいと思う。

◎ 会長

・男女平等に関する課題だけでなく、地域においても課題があるように思う。市は、各委員からのご意見も踏まえて男女平等・共同参画の推進に取り組んでいただきたい。

6 閉 会

[以 上]